

6-14 四国地方の地殻変動

Crustal Movement in the Shikoku District

国土地理院

Geographical Survey Institute

第1図、第2図は、四国北部の水準測量結果である。第1図は、前回と変動が対称的になっており、今回は今治に向かって隆起となっている。第2図は、今治から更に西条に向かって2 cm程度の隆起がみられる。

第3図、第4図は、四国東部の精密測地網一次基準点測量の結果である。一次網1回目の測量と比較すると、北西-南東方向の縮み傾向がみられる。明治との比較では、1946年の南海地震を挟んでおり、南側では北西-南東方向の伸びがみられる。

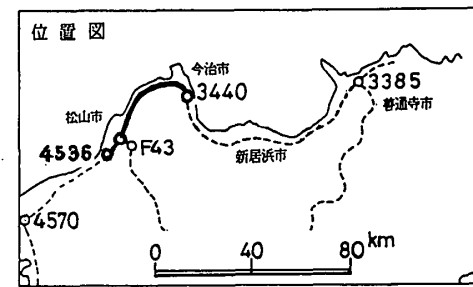
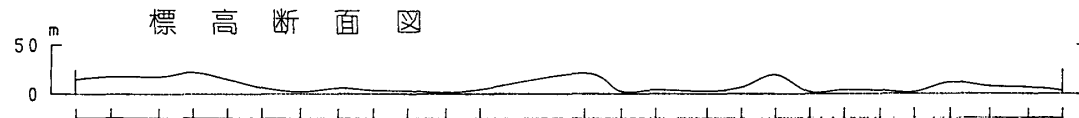
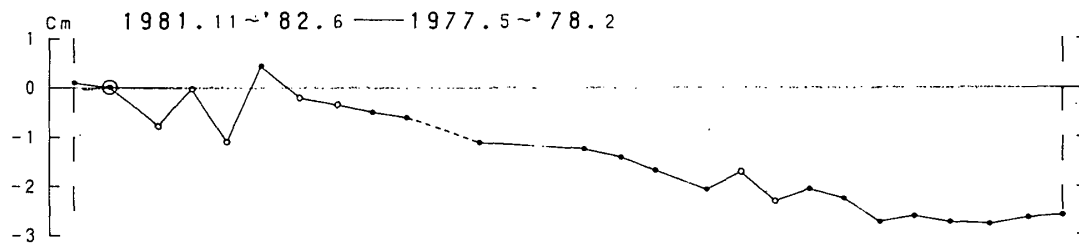
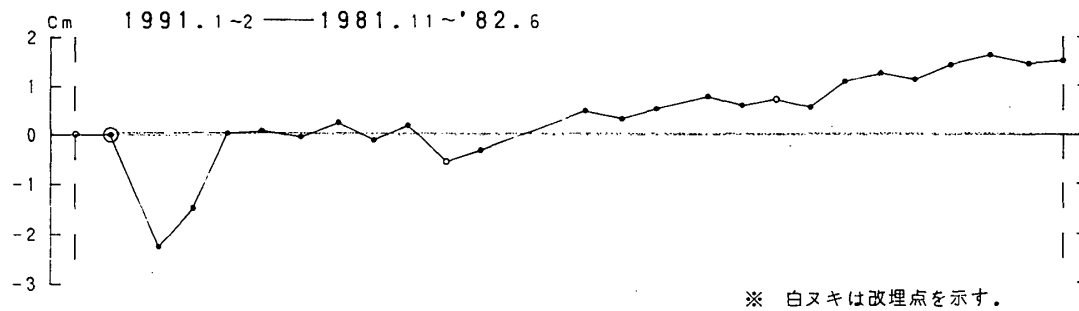
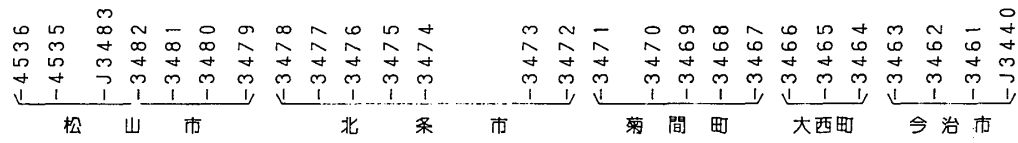
第5図～第7図は、第3図及び第4図と地震予知連絡会会報第44巻に報告したものを纏めたものである。一次網1回目と比較すると、全体的に北西-南東方向の縮みがみられる。

南海震災改測との比較では、北西-南東方向の縮みが卓越しており、フィリピン海プレートのサブダクションに伴う歪が蓄積されていることを示している。

明治との比較は、四国中部以東と西部の歪のパターンが異なり、西部では南海地震を経ても大きな北西-南東方向の圧縮歪がみられる。

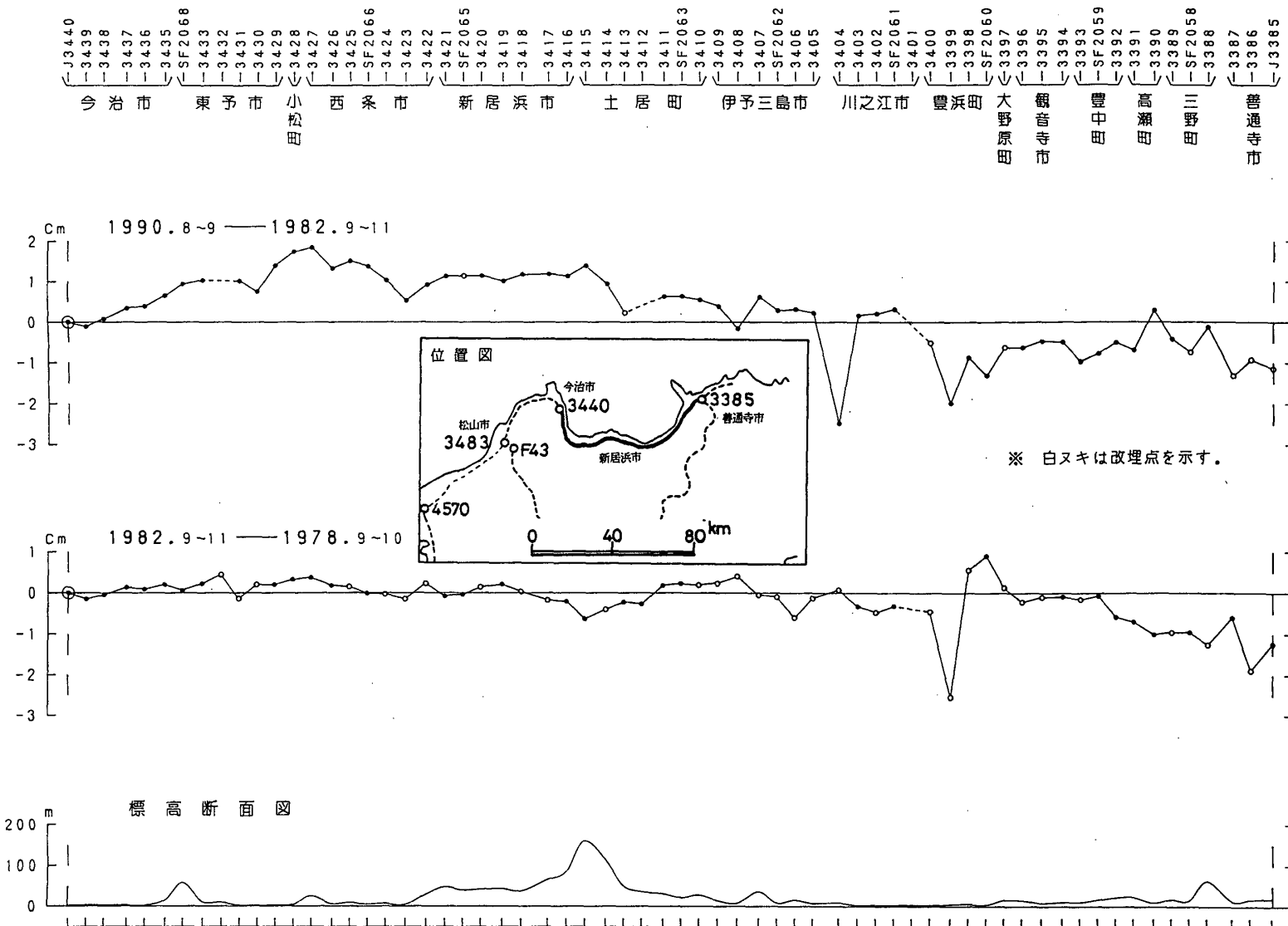
参 考 文 献

- 1) 国土地理院：四国地方の上下変動，連絡会報，29. (1983)，325-331.
- 2) 国土地理院：四国地方の水平歪，連絡会報，29. (1983)，309-324.
- 3) 国土地理院：四国地方の水平歪，連絡会報，32. (1984)，352-354.
- 4) 中国・四国地方の地殻変動，連絡会報，44. (1990)，382-387.



第1図 松山-今治間の上下変動

Fig. 1 Level changes along the route from Matsuyama to Imabari.

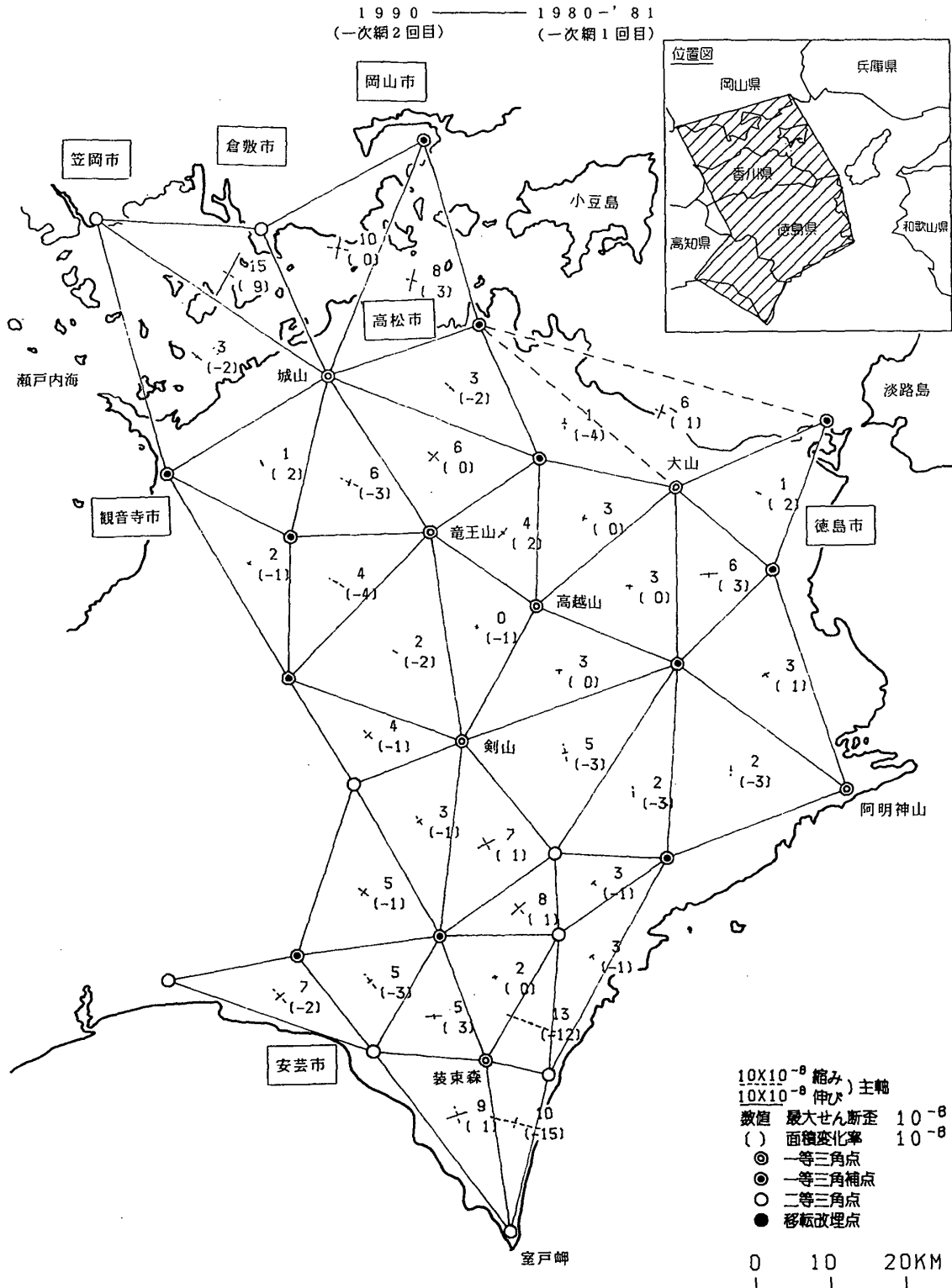


J3440
 -3439
 -3438
 -3437
 -3436
 -3435
 SF2068
 -3433
 -3432
 -3431
 -3430
 -3429
 -3428
 -3427
 -3426
 -3425
 SF2066
 -3424
 -3423
 -3422
 -3421
 SF2065
 -3420
 -3419
 -3418
 -3417
 -3416
 -3415
 -3414
 -3413
 -3412
 -3411
 SF2063
 -3410
 -3409
 -3408
 -3407
 SF2062
 -3406
 -3405
 -3404
 -3403
 -3402
 SF2061
 -3401
 -3400
 -3399
 -3398
 SF2060
 -3397
 -3396
 -3395
 -3394
 -3393
 SF2059
 -3392
 -3391
 -3390
 -3389
 SF2058
 -3388
 -3387
 -3386
 J3385

今治市 桑子市 小松田 西条市 新居浜市 土居田 伊予三島市 川之江市 豊浜田 大野原田 観音寺市 豊中田 高瀬田 三野田 善通寺市

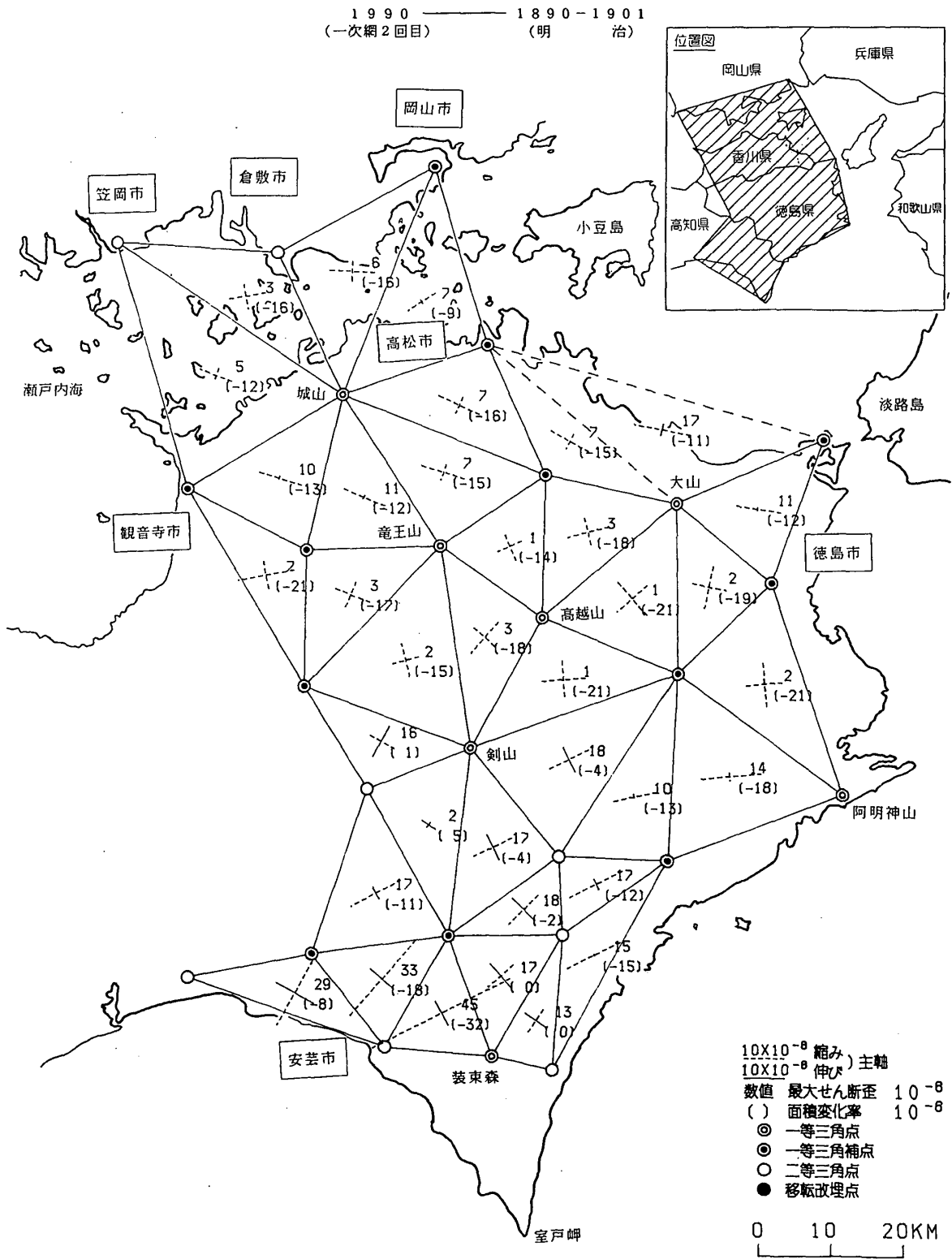
第2図 今治—善通寺間の上下変動

Fig. 2 Level changes along the route from Imabari to Zentsuji.



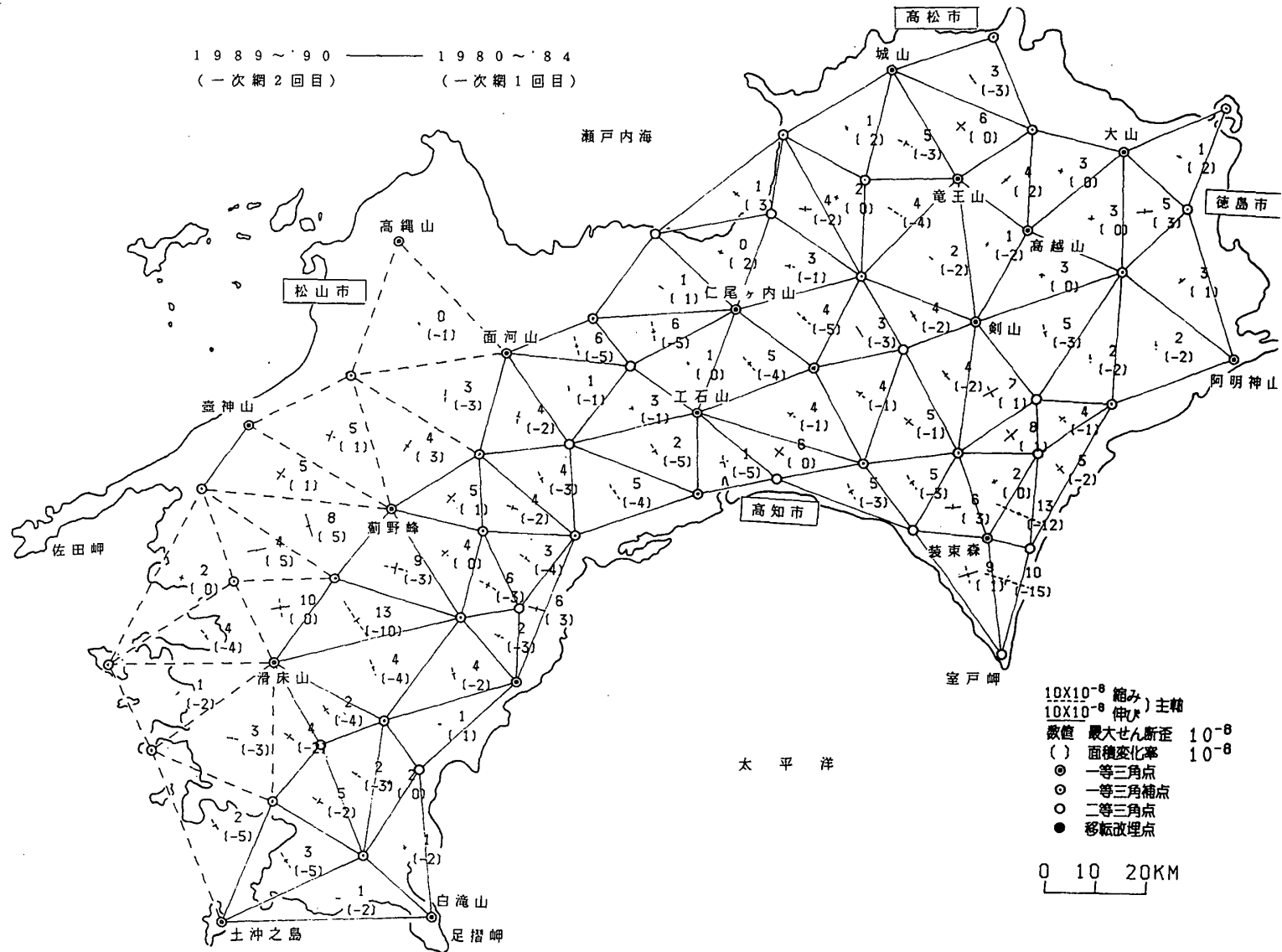
第3図 四国東部地方の水平歪(1)

Fig. 3 Horizontal strain in the eastern part of the Shikoku District (1).



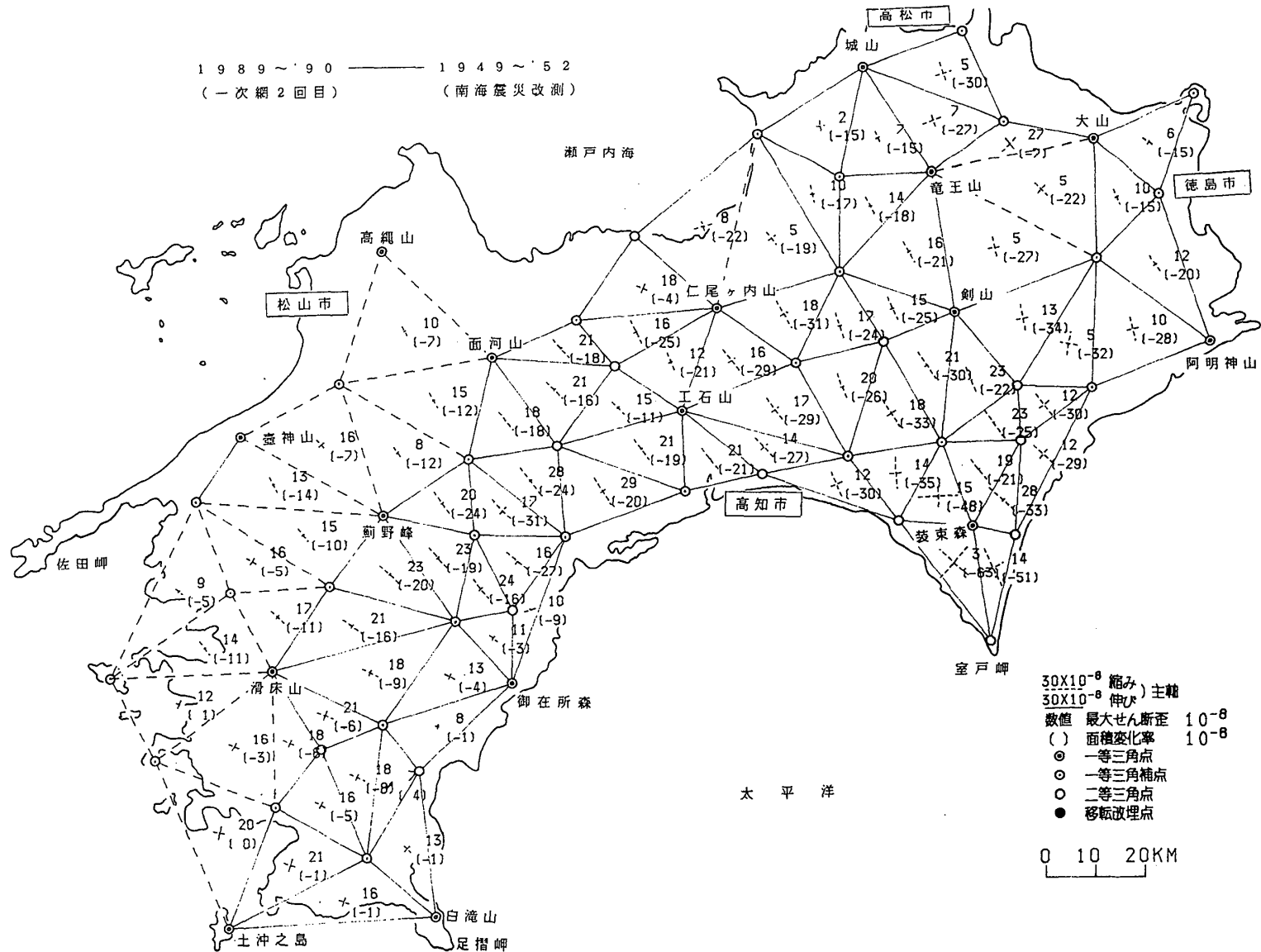
第4図 四国東部地方の水平歪(2)

Fig. 4 Horizontal strain in the eastern part of the Shikoku District (2).



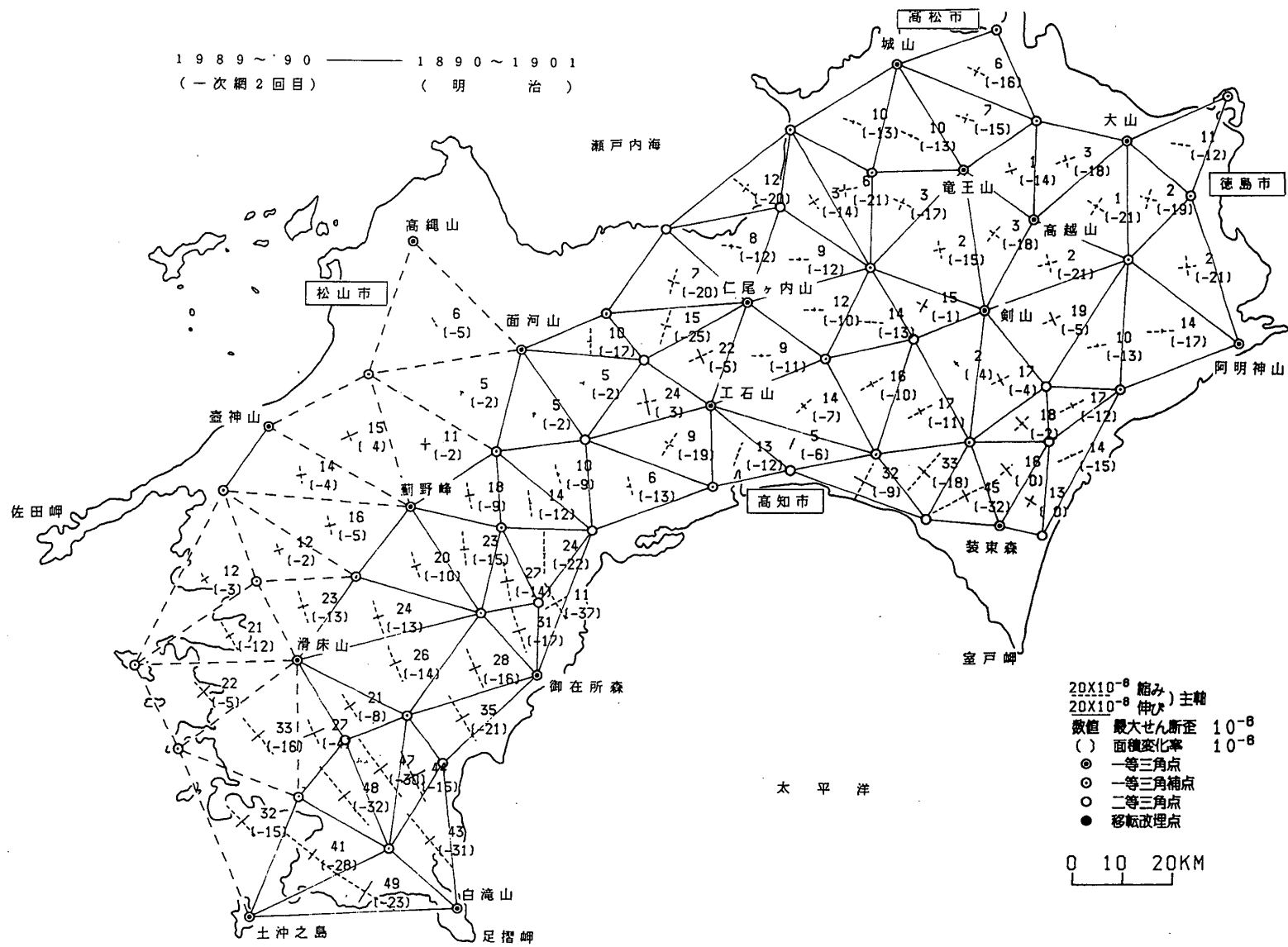
第5図 四国地方の水平歪(1)

Fig. 5 Horizontal strain in the Shikoku District (1).



第6図 四国地方の水平歪(2)

Fig. 6 Horizontal strain in the Shikoku District (2).



第7図 四国地方の水平歪(3)

Fig. 7 Horizontal strain in the Shikoku District (3).